

## ツール 17：コンテキスト・イマージョン

### このツールの目的

ステークホルダーの物の見方や経験を深く掘り下げるために、彼らの仕事や日々のルーティンに没入する。これにより、新たな洞察や非公式な直感につながる。

### このツールを使うタイミング

共通言語のフェーズ。特定のステークホルダーグループにとっての現実に対する理解を構築するために行う。

### コンテキスト・イマージョンとは

コンテキスト・イマージョンとは、人々と会い、彼らが暮らし、働き、馴染んでいるコンテキスト（状況・文脈）に自分自身を没入させることを指す。このツールは、受益者またはクライアントとのエンゲージメントのための手法だ。コンテキスト・イマージョンの議論の中に、これらのステークホルダーグループをメンバーとして加えるのが理想だが、現実には、実現不可能なことが多い。

コンテキスト・イマージョンは、往々にして議論のメンバーではないものの議論の対象となっている人々と交流し、彼らについて学べる可能性を提供してくれる。たとえば、小規模農家やスラムの住人をイメージしてみればよい。

イマージョンは、現地訪問や実地見学と同じものではない。通常、滞在が付き物で、交流が適切なものとなり、関わる人すべてにとって価値があるものとなるよう、コントロールされる。コンテキスト・イマージョンは、より深いレベルで関係者とエンゲージする機会を提供してくれ、公式で明示的、かつ体系的な知識ではなく、暗黙の知識をベースとした新たな洞察を与えてくれる。重要なのは、哀れみではなく、共感を増幅することである。

コンテキスト・イマージョンは、たとえば貧困の撲滅に取り組み、この課題についての論文を書いている開発の実践家にとって非常に有用なツールである。このようなイマージョンプログラムを実施する組織としては、世界銀行や英国の国際開発省（DFID）などがある。DFIDのイマージョンプログラムの参加者の1人によれば、この手法は、「貧しい人々が感じていることを言語化する能力や、彼らの物の見方に共感する能力」を与えてくれるという（R. Irvine, R. Chambers, and R. Eyben, 2004）。

コンテキスト・イマージョンは、会議や書類作成、表計算といった日常のルーティンの仕事から離れた「リアリティ・チェック」としても貴重なものとなり得る。このツールは、政策立案を行う力を持つ者の態度を変容させる可能性があり、変革を引き起こすための戦略と捉えることもできる（R. Krznaric, 2007）。

### コンテキスト・イマージョン – ステップ・バイ・ステップ

**ステップ1**：ホームステイを計画し、研究者（またはMSPの主要チームメンバー）の1～3泊のホストファミリーとなってくれそうな人を特定する。現地の習慣や安全のレベル、言葉の壁に応じ、チームメンバーは、単独で、あるいは2～3名のグループで各家庭に滞在する。

宿泊が実現不可能な場合、現地訪問が第二のオプションとなる。現地訪問は、チームビルディングとチームでの学習という素晴らしい副次的効果を生んでくれる。だが、もしも可能なら、現地で宿泊することを強く推奨する。そうすることで、共感と、現実的な解決策についての洞察が得られるからである。

**ステップ2**：この活動のゴールとは、参加者が日々の暮らしを体験することだということを、必ずチームメンバーが理解するように図る。ホームステイ先に手の込んだ贈り物や食料、アルコール類を持っていかないようチームメンバーにアドバイスする。しかし、一般的な日用品のようなちょっとしたギフトや、通常の世帯支出の足しになるようなものを提供することは問題ない。

**ステップ3**：チームメンバーに、ホームステイ先の家族の日常のルーティンに参加するよう伝える。ホームステイ先の家族と一緒に時間を過ごし、その家の男性、女性、子供たちと話をするように伝える。こういった人々全員の異なる見方から、その家庭がどのように生活しているのかが重要である。



写真：[www.business.illinois.edu/subsistence/teaching/immersion.html](http://www.business.illinois.edu/subsistence/teaching/immersion.html) (2015年12月5日にダウンロード)

#### ヒント：

コンテキスト・イマージョンは、家族のいる世帯でのホームステイという形もあれば、ある個人やあるグループと共に働くという形でも実施できる。

コンテキスト・イマージョンを通じ、人々が言うことと、彼らが実際にやっていることとの間のギャップについて、明瞭に理解できるようになるかもしれない。コンテキスト・イマージョンにより、人々が語ることに知識を限定することなく、彼らが考えたり感じたりしていることを垣間見ることができるようになる。これにより、解決策や新たな計画を策定する際にインプットとして使える「情報に基づいた直感」が得られる。また、コンテキスト・イマージョンは、コミットメントを示すことにつながり、ステークホルダー間の信頼を築いてくれる。

#### さらに知りたい方は：

Human Centered Design- Toolkit – 2nd edition

[http://www.ideo.com/images/uploads/hcd\\_toolkit/IDEO\\_HCD\\_ToolKit.pdf](http://www.ideo.com/images/uploads/hcd_toolkit/IDEO_HCD_ToolKit.pdf)

Roman Krznaric (2007). How change happens- Interdisciplinary perspectives for Human Development Oxfam Research Report <http://policy-practice.oxfam.org.uk/publications/howchange-happens-interdisciplinary-perspectives-for-human-development-112539>

Renwick Irvine, Robert Chambers, and Rosalind Eyben (2004) Learning From Poor People's Experience: Immersions, Lessons for Change Series No. 13, University of Sussex: IDS: 6-10.

[www.eldis.org/vfile/upload/1/document/0903/IMMERSIONS2.pdf](http://www.eldis.org/vfile/upload/1/document/0903/IMMERSIONS2.pdf)

ActionAidは、ファシリテーター付きイマージョンプログラムを提供：

[www.actionaid.org.uk/sites/default/files/content\\_document/immersions\\_brochure.pdf](http://www.actionaid.org.uk/sites/default/files/content_document/immersions_brochure.pdf)

コンテキスト・イマージョンについての、開発エコノミストBarderのブログ：[www.owen.org/blog/3320](http://www.owen.org/blog/3320)